

経営比較分析表（平成30年度決算）

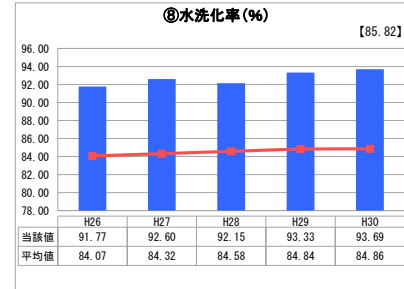
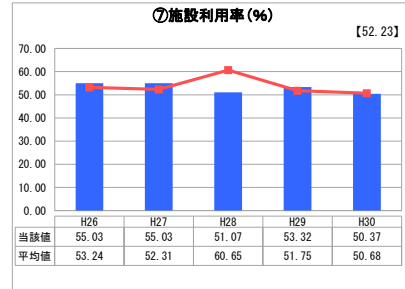
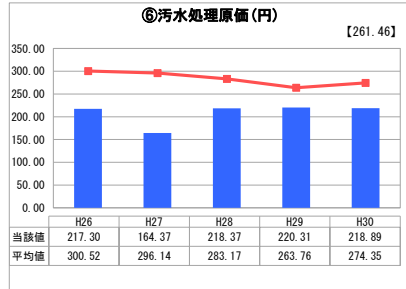
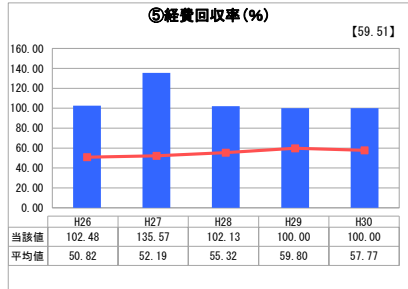
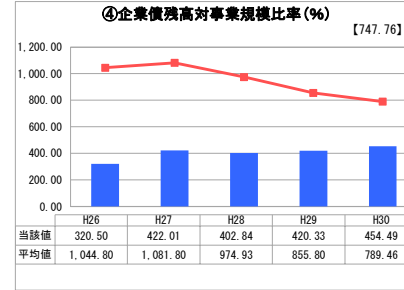
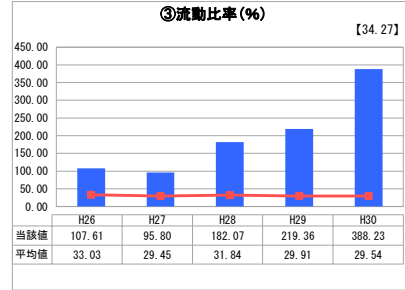
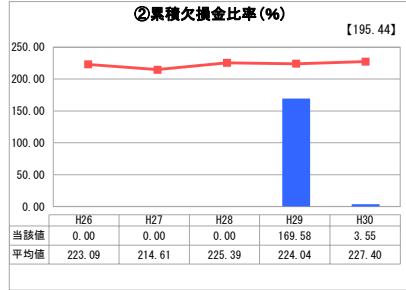
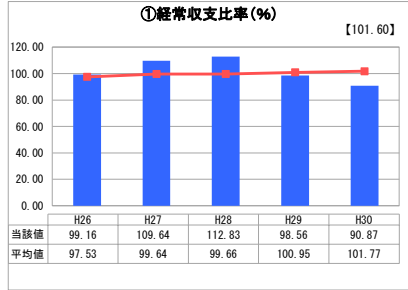
長野県 佐久市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)
-	85.32	6.31	98.56	4,428

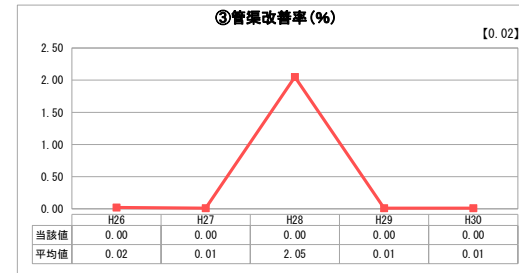
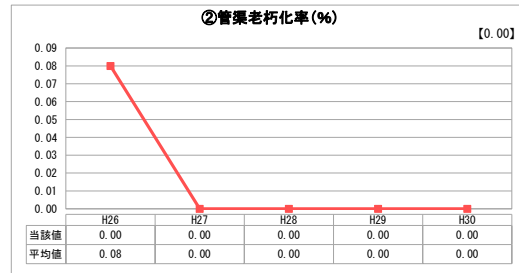
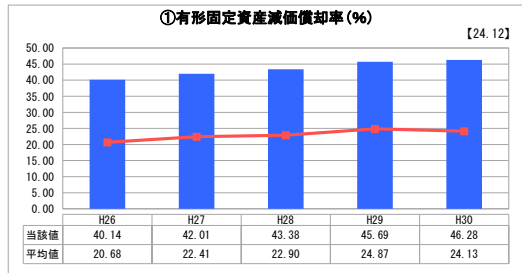
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
99,219	423.51	234.28
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
6,242	3.06	2,039.87

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
□	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、前年度に比べて約7%減少し、引き続き100%を下回っている。要因は処理場施設を統廃合したことによる資産減耗及び有収水量の減少と考えられる。
- ② 累積欠損金比率について、前年度と比較して約166%減少し3.55%となった。これも統廃合による処理場の減が要因である。
- ③ 流動比率については年々増加しているが、施設の統廃合により負債（企業債償還金等）のある施設が他事業（公共下水道）に移行したことが要因として考えられる。経常収支が赤字であるものの流動資産はあることから、短期的な支払能力はあることが分かる。
- ④ 企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均値と比べて低いため、経営負担は小さい。
- ⑤ 経費回収率は前年度同様100%となったが、これは繰入金算定における分流式下水道等に要する経費の見直しによるものである。
- ⑥ 汚水処理原価は微減しており、引き続き類似団体平均値よりは低い値となっている。
- ⑦ 施設利用率は50.37%と低く、施設の処理能力に余裕があることが分かる。施設の統廃合やダウンサイジング等検討していく必要がある。
- ⑧ 水洗化率は、住宅新築や改築に伴い年々上昇している。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は年々上昇している。類似団体平均値と比較しても高い率であるため、計画的に老朽化対策を行う必要がある。

全体総括

この事業の対象地区は中山間地域や農村地域が多く、高齢者の占める割合が高くなっている。将来は人口減少による使用料収入の減が見込まれるため、事業内外での施設統廃合や長期的利用を見据えた対策を行っていくことが求められる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。